



花の思い出



私が好きなお花は日日草(ニチニチソウ)。日日草は、毎日のように花を咲かせお花の色によっても花言葉が色々あります。花の形や色もとても可愛く癒されています。 園様

私の思い出の花はチューリップです。初めて友人から卒業式にもらった花が黄色のチューリップ、そして会社を辞める時にもらったのは紫色のチューリップ、主人から初めてもらった花はピンクのチューリップなのでとても親しみ深いです。私の家の庭には今、毎年チューリップが咲いています。 ひろにゃん様

今年の桜は雨、寒さでまだこの近くでも楽しんでいません。私にとっては桜の開花が終わると今年もあつという間に終わってしまうのでしょの感覚です。 でも元気で都内ウォーク・美術館巡りを楽しみたいです。 マッチャン様

カサブランカが大好きな人がいた。私のときは菊よりもカサブランカで飾ってねと言われた。大輪を見るたびに思い出す。 後の無い高齢者様様

花にまつわる思い出、ずっと残っているのは田舎の春の黄色い菜の花です。ハクサイって均一に育ちそうですが、実は個体差があります。晩秋の出荷の時期に十分成長していないものは残念ながら畑にポツリポツリと取り残されます。その後雪がつもり春になるとその取り残されたハクサイから菜の花が咲くのです。出荷されなかったハクサイの方が花を咲かせられて幸せかもしれませんね。たかたか様

高校の時、仲は良いけれど脈がなさそうな人にプレゼントしようと花屋さんに行きました。「花は何にしますか」と聞かれ、花の種類を知らずいきなり悩むことに。「本数はどうしますか」に値段の相場を知らずまた悩む。等々、さんざん緊張したおかげで渡すときにはリラックスしていました。ただ結果は予想通り、。 ミニトマト様

春の訪れとともに見頃を迎えるチューリップ。子供を幼稚園に迎えに行くと咲いているチューリップを見て幼い頃にチューリップを育てたこと、チューリップの歌をよく歌っていたことを思い出しても懐かしいです。 さな様

日本一の桃源郷とも呼ばれる長野県にある「花桃の里」約5,000本もの花桃が植えられており花々が山あい華やかに彩ります。子供の頃、今は亡き両親や兄妹達と家族旅行で訪れた思い出の場所です。 こう様

私の家の庭では毎年シュウカイドウの花が咲きます。家を建て替えたときに庭に砂利を敷いたのでもう生えてこないと思っていたら石の隙間から何事もなく生えてきたので、本当にたくましい花だなと思いました。 チャコ様

もう25年以上前、「三春の滝桜」を見に行き感動し、そこに苗木が売られていて庭に植えて2m位になって広い所に移植し、今は4m位に育っています。花の数は少ないですが、毎年ソメイヨシノより早く咲き、いまだに楽しませてくれています。 ことP様

今日から5月、大空を泳ぐ鯉のぼりに心も晴れやかな季節となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。ついに4月13日に開幕した大阪・関西万博。かつて日本では下記5回の万博が開催され大盛況のうちに幕を閉じました。(1970年大阪万博、1975年沖縄海洋博、1985年つくば万博、1990年花の万博、2005年愛知万博) そこで今月のお題は「万博の思い出」と題し、皆様の思い出やエピソードを大募集！採用された方にはグルメセットをプレゼント♪ 沢山のご応募お待ちしております。

那須高原ITAMUROキャンプ場

2025.4.8



出る炊事場やシャワー・貸切風呂などの設備が整っています。更にク

このキャンプ場は二度目の訪問となります。以前のサイトに更にプラスしてソロサイトがたくさん出ていました。4枚目の写真は、あの「ヒロシのぼっちキャンプ」で使われたサイトです。溪流が横に流れていて、とても癒やされる場所です。しかし、私は荷運びをしたくないので、上から溪流が望める4番のオートサイト(クルマ横付け可)を選びました。この日は7組しかキャンパーが居ないので、場所は自由に選べました。ここはハイバックなソロキャンプ地を目指していて、ウォシュレット付きトイレ・お湯の

ラウドファンディングも募っていて、集まった金額によって段階的に拡張していきらしいです。ここは「ソロキャンプの聖地」と言われ、お籠りキャンプをするにはもってこいのキャンプ場です。近くには板室温泉があり、木の俣園地という清流も流れています。私は温泉の中でも「立ち湯」が好きです。帰ってから知ったのですが、近くの幸の湯では130センチ程の深さの浴槽があり日帰り温泉も可能です。長野県諏訪市上諏訪温泉片倉館や、栃木県の美玉の湯などで入浴したことがあります。とても気持ちいいものです。

坂本様



ASA川口中央の招き猫 ロンシャン君の不定期日記

★プロフィール☆
名 前：ロンシャン君
住まい：川口市赤山
朝日新聞販売店

vol.129

こんにちはロンシャンです！新緑が眩しいこの季節、皆さんお元気ですか？

ゴールデンウィークや母の日など初夏へ向かって楽しいイベントが盛りだくさんですね。



そんな5月ボクにとっての一番の出来事は一人でお留守番。一日だけ家族のみんながお家を留守にしてしまうので久々のお留守番です。もちろん自分でご飯やお水、トイレのお掃除は出来ないののでその日は2回ペットシッターさんに来てもらいます。



家族以外の人に会うのは久々なので少し緊張しますが仲良しになれる

と嬉しいです♪ それではまた来月ロンシャン日記でお会いしましょう♪

心が少しざわめく



2025年度がスタートしました。この季節はいつも心が少しざわめきます。いつもと違うのです。通勤で電車に乗ります。同じ駅で、同じ時刻に、同じ車両。降り降りする扉も同じです。自分なりの通勤時のルーティン、つまり習慣なのです。ですが、新年度になると、通勤途中で見かける顔が変わります。人の流れも電車の混雑も変化がみられます。

進学や就職、転勤の季節だからです。車や徒歩の通勤・通学でも同じような場面があるでしょう。ルーティンは、ラグビー元日本代表の五郎丸歩さんがプレスキックを蹴る前に見せた独特の動きが有名でした。もう10年前の話です。当時、朝日新聞が取り上げた際、その効果について、「ストレスや不安が減った」と五郎丸さんは語っていました。

米・大リーグの大谷翔平選手も、活躍の秘訣について「毎日同じルーティン」と表現しています。穏やかな姿勢で過ごした結果が、昨季の数々の偉業につながったそうです。

記者の取材では、相手の行動や考え方のルーティンを理解しておくのが重要ですよ。いつもと何が違うのか？ 鍵だからです。相手の行動パターンから、いつ、どこで話を聞く機会を得られそうか、も探ります。毎春に繰り返す私の小さな心の乱れですが、すぐに新しい状況に適合できています。進学や就職などで大きく生活環境を変えた人たちも早く、それぞれのルーティンを見つけ、穏やかな日々を過ごせるように願っています。

新年度スタート

朝日新聞立川支局員

山浦 正敬

映画「少年と犬」

2025.4.2

馳星周の直木賞受賞作「少年と犬」を、「ラーゲリより愛を込めて」の瀬々敬久監督が映画化。さまざまな事情を抱える人々と1匹の犬が織りなす交流を原作の複数のエピソードをもとに、オリジナル要素を加えて描いた作品です。犬の多聞と共に旅をする和正を高橋文哉、多聞に命を救われる美羽を西野七瀬が演じる。震災から半年後の宮城県仙台市。職を失った青年・和正は、震災で飼い主を亡くした犬の多聞と出会う。聡明な多聞は和正とその家族にとって大切な存在となるが、多聞は常に西の方角を気にしていた。やがて家族を助けるため危険な仕事に手を染めた和正は事件に巻き込まれ、その混乱の中で多聞は姿を消してしまう。時が流れ、多聞は滋賀県で暮らす女性・美羽のもとで過ごしていた。悲しい秘密を抱える美羽は、多聞と過ごすことで平和な日常を取り戻していく。そんな彼女の前に多聞を追ってきた和正が現れ、2人と1匹の新たな生活が始まる。傷ついた人々に寄り添いながら

もたった1匹で西を目指して歩く多聞には、ある少年との約束があった。大切な人に会うために岩手県釜石から彷徨ってきた一匹の犬「多聞」が、西の方角を目指して日本を縦断する旅路で出会った、傷つき、悩み、惑う人々との心の交流、全ての人々の心に寄り添う珠玉の感動物語です。途中傷ついた体で猫師の老人と出会った際には、世話をしてくれた老人を看取ってから最後のたびに出る。人の心に寄り添ってくれる、こんな動物はいないと思います。熊本まで5年もかかっている、その間何人かの方に飼っていただいたはず、と少年の父は感謝の言葉を口にします。読者の中では「現代版の「フランダーズの犬」のようで泣いた！」と話題になりました。「多聞」が最後に目を閉じた場面では、心から「お疲れさま」と思えました。画像と解説文の一部はWEB情報より引用させていただきました。 坂本様

